

With コロナ時代を生き抜く

経済活動の再開や学校教育の充実、新型コロナウイルス第二波の抑制を両立させるためには、一人一人が「3密」を避けるなどの新しい生活様式を意識し、徹底するしかありません。不安を解消し安心して生活できるように、新しい沼田を皆さんと一緒に作っていききたいと思います。

全小中学校に次亜塩素酸水生成装置を設置

4月に緊急事態宣言が発令され、市内の小中学校も休校を余儀なくされましたが、6月からは分散登校、中旬からは一斉に通えるようになりました。環境衛生を良好に保てるように、市は、全小中学校に除菌に効果があるといわれる次亜塩素酸水の生成装置を設置。塩酸と塩化ナトリウム補助液を電気分解することで得られる水溶液で、低コストで大量に生成でき、学校は手を触れる箇所の消毒などに役立てています。

薄根小学校（星野耕史校長）では、登校前と授業中、放課後の3回、教諭やスクール・サポート・スタッフ



らが校内を回り、1日に約20リットルの次亜塩素酸水と消毒用エタノールを併用して、玄関や扉、遊具などを除菌しています。星野校長自らも毎日消毒液を持って巡回し、「全教室の扉や蛇口など消毒をしながら児童を見守っている」と話し、「一人一人が予防に努めると同時に、こういう状況だからこそ友達との関係づくりを大切にしてほしい」と呼び掛けています。

併せて、同校は登校時と給食前に検温を実施、熱中症を考慮しながらマスク着用の励行、手洗い場などは密集を避けるよう立ち位置に間隔を空けてテープで表示するなどの工夫もしています。

学習面では、国の2023年度計

画の前倒しに併せ、今年度中に児童生徒1人に1台ずつ学習者用端末を配備することを決めています。今後、各教室でICT（情報通信技術）を活用した授業に利用するほか、第二波の到来に備えて自宅で学習できる体制を整えていきます。

図書消毒機を導入

一方、市立図書館は書籍の消毒機を導入。機械の中に本を入れると紫外線レーザーが当たり、ウイルスの殺菌やほこり取りなどが30秒で完了します。導入前は数日間、本を空気に触れさせることで衛生状態を保っていました。しかし、機械を活用することで貸し出すまでのサイクルが早くなり、たくさんの本を提供することができるようになりました。

それぞれの本棚の足元には2メートル間隔でガムテープを貼って「3密」を回避する環境をつくり、貸し出しと返却窓口も同様な対応をしています。本を積んだ専用車が市内を

友達と楽しく、勉強も頑張る

学校が始まり、友達に会えて嬉しいです。手洗い・うがいと出掛けるときはマスク着用を心掛けてきたので、続けていきます。残りの学校生活は、遅れた分の勉強を取り戻すことに力を入れ、友達との時間を大切にしていきたいです



片野光琉さん（薄根小6年）



給食の前には一人一人検温し、発熱がないかを確認



次亜塩素酸水で手すりを消毒する星野校長